

施策マネジメントシート（令和 4 年度目標達成度評価）

第2次 総合計画 体系	政策 No.	7	政策名	地域の資源を活かし 企業も市民も元気なまち
	施策 No.	1	施策名	農業の振興と森林の保全
施策主管課	農林水産課		施策関係課名	農村整備課・農業委員会

1 施策の目的（①対象③意図）と指標（②対象指標④成果指標）等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)						
A. 農業世帯 B. 市内の森林		A. 農業を基本とした安定した生活設計と農業経営ができる B. 適切に保全・管理できる						
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	成果指標の達成状況及び要因 1) 達成。既存の経営所得安定対策に加え、新型コロナウイルス感染症対策で取り組んだ農業者に対する支援事業により、園芸振興事業において施設整備や機械導入、農地の集積が進んだことや、基盤整備においては国営・県営事業の進捗により安定した農業経営につながったことなどが「農業世帯の平均農業収入額」が伸びた要因として考えられる。 2) 未達成。山林の保全のため、補助金及び森林環境譲与税を活用しながら個人所有の山林についても間伐を実施しており、前年に比べると実績値は伸びているが、森林所有者の把握に時間を要していることもあり、目標未達成となった。
1	農業世帯の平均農業収入額	千円	目標値	6,008	6,229	6,450	6,670	
			実績値	6,237				
			達成率	103.8%				
2	間伐を実施した面積	ha	目標値	26.3	26.3	26.3	28.3	
			実績値	18.2				
			達成率	69.2%				
3			目標値					
			実績値					
			達成率					
4			目標値					
			実績値					
			達成率					
5			目標値					
			実績値					
			達成率					

2 施策（基本事業）の振り返り

基本事業	(施策の目標達成に向けて、どのように取り組んだか。)
農業基盤整備の推進と経営の安定強化	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営の安定化を図るため農地集積による経営規模の拡大を支援した。 維持管理労力の軽減を図るため、施設の機能回復を行った。 営農環境を整備するため園芸振興対策事業に取り組んだ。 新型コロナウイルス感染症対策として燃油・肥料・資材高騰への支援を行った。
就農者に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者への国の補助事業を活用した支援を行った。 6次産業化に取り組んでいる団体に支援を行った。
森林環境の保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> 水源涵養など公益的機能の発揮のため、森林組合と地元の協働体制により、ふるさとの森林づくり事業に取り組んだ。 市有林、私有林の保全管理に努めるため、間伐等の森林整備事業を行った。

3 施策の課題（基本計画で掲げた施策の「現況と課題」、成果指標の達成状況を踏まえて、次年度以降に向けた施策の課題）

<ul style="list-style-type: none"> 農業世帯の高齢化、後継者不足により、優良農地の保全や耕作放棄地の解消が難しくなっており、将来に残すべき農地を地域の話し合いの中で明確化していく地域計画の作成が求められている。 集落によっては、担い手への農地の集積や営農条件の改善のための基盤整備が必要とされている。 森林については、適切な管理が求められており、森林組合及び地元等との協働体制を構築しながら、公有林・私有林ともに保全管理に努める必要がある。
--

4 今後の取り組み（課題解決に向けた今後の取り組みの方向性・内容等）

<ul style="list-style-type: none"> 目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する地域計画の策定に取り組んでいく。 農地の集積を継続して取り組んでいくとともに、農業施設の適切な維持管理に努めていく。 農地や農村が持つ多面機能の維持・発揮のために行う地域の共同活動や営農活動を支援する日本型直接支払制度（多面的機能支払、中山間地域等直接支払、環境保全型農業直接支払）を継続して取り組んでいく。 園芸作物振興に向け、生産者、JA、市、県とでの話し合いを進め、産地を維持、発展させる取り組みを進めていく。 森林組合及び地元等との協働体制を維持しながら山林の保全に努めていく。
